

特集3 | ホスピタリティに見るデザイン

6

DESIGNING FOR HOSPITALITY

ホテルのインテリア
シャングリ・ラ ホテル 東京 | Shangri-La Hotel, Tokyo

28階ザ・ロビーラウンジ

「シャングリ・ラ ホテル」は、香港を拠点に、世界に展開するラグジュアリー・リゾート・ホテルだ。

2009年3月、満を持して東京進出を果たした。

「シャングリ・ラ ホテル 東京」は、東京駅に隣接した37階建て複合ビルの最上階、11フロアに位置している。

西に丸の内界隈と皇居の森、東に東京湾…どのゲストルームからも素晴らしい眺望が楽しめる。

大きなシャンデリア、植物がモチーフのファブリックやアートワーク、有機的な色調でまとめられたインテリアなど、

「シャングリ・ラ ホテル」のDNAが居心地の良い空間をつくり出している。

シャングリ・ラ ホスピタリティをハード・ソフト両面から見ていくと、より充実したホテルステイを堪能できる理由が浮かび上がってきた。

「シャングリ・ラ ホテル 東京」は、現代人の“地上の楽園”をコンセプトに、2009年3月、東京・丸の内にてオープンしました。ここでしか味わうことのできない心のこもったおもてなしと上質な空間で、疲れた心を癒していただきたいと願っております。居心地の良いホテルライフを楽しんでいただくには、“家族を思いやる心”でお出迎えし、接すること。きめの細かいサービスを身につけ、温かいおもてなしが自然にできるよう、スタッ

フ一同、日々努力しております。ホテル全体のインテリアは、ハーシュ・ベドナー・アソシエイツがデザイン・監修しています。ブラウン、ベージュ、グリーンなど自然界に存在する色調でまとめ、有機的な雰囲気を醸し出しています。ホテル全体のテーマであるオリエンタルな空間を展開しているのは、植物がモチーフのファブリックやアートワークです。複合ビルの中でもホテルに一步入ると、一瞬にして開放された気

分に満たされるように空間が演出されています。また、ゲストルームはすべて50m²以上という東京一の広さを確保し、素晴らしい眺望をご覧になりながら、心身ともにおくつろぎいただけるようになっております。一方、イタリア料理ピチャチェレ、日本料理など、ホライゾンクラブラウンジは、新進気鋭のインテリアデザイナー、アンドレ・フォー氏が手がけ、“デスティネーション(終着地点)”をテーマに、同じホテルの中でも、異次

元の空間に足を踏み入れた感覚が味わえるようなデザインにまとめられています。有機的で穏やかな色とデザイン、そして先鋭的な現代感覚のコントラストがお互いの魅力をいっそう引き立てているのだと思います。そして、何といてもリピーター客を魅了しているのは、“シャングリ・ラのDNA”と呼ばれる世界共通の元素です。シャングリアはその最たるもので、「シャングリ・ラ ホテル

東京」では、パブリックエリアにきらめく50点以上のシャンデリアが、非日常空間へと誘ってくれます。他にも、ルームフレグランスや毛足の長い絨毯などは、シャングリ・ラ共通のオリジナルテイストです。「シャングリ・ラに帰ってきた」と五感で感じていただけるような仕掛けが、愛され続ける秘訣につながっているのではないのでしょうか。そもそも「シャングリ・ラ ホテル」の名は、ユートピア小説の代表として知られる『失

れた地平線』の“シャングリ・ラ”という架空の桃源郷に由来しています。その不老長寿の里を再現した心安らく空間で、アジアンホスピタリティを存分にご堪能していただきたいと思います。

【建築概要】

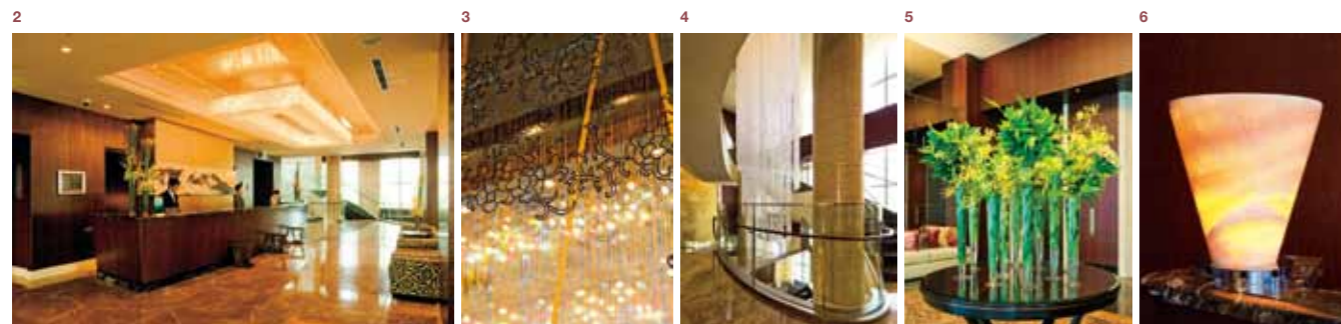
名称: シャングリ・ラ ホテル 東京
所在地: 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館
地下1階、1階、27-37階
延床面積: 23,103m² | 客室数: 200室 | 開業: 2009年
ホームページ: <http://www.shangri-la.com/jp/>
内装設計: 全体: ハーシュ・ベドナー・アソシエイツ、ピチャチェレ・など
ホライゾンクラブラウンジ: AFSSO

HOTEL'S COMMENT

ホテルズコメント | 「シャングリ・ラ ホテル」のアジアンホスピタリティ

武井絵美 | Emi Takei

たけい えみ — シャングリ・ラ ホテル 東京 コミュニケーションディレクター



- 1 — 28階エレベータ前ロビー: 温かみのある色調と花のモチーフが有機的な雰囲気を醸し出している。ソファには機つもクッションが置かれ、一度座ると長居してしまうほど居心地が良い
- 2 — レセプション: 28階は春をイメージしたフロア。花は黄色系でまとめられている
- 3 — ボタンの花を約80,000個のクリスタルガラスで描いたアートワーク
- 4 — 27-29階の3層を貫く、長さ約10mのシャンデリア: チェコ製のハンドメイドで、輝きはひととき優雅。シャンデリアのイメージは、月に照らされた雲間から降り注ぐ雨粒
- 5 — 1階エントランスロビーを彩るアーティストックな花: ホテル内のフラワーアレンジメントは、すべてニコライ・バグマンが手がけている | 6 — オリエンタルな雰囲気を漂わせる照明



- 7 — イタリア料理ピチャチェレ: イタリアを象徴するオリーブグリーンやブラウンを基調とし、艶やかにまとめられている。シャンデリアはベネチア製
- 8 — 大理石に絨毯を象嵌したレストランの床: デザイナーが特にこだわってデザインしたという
- 9 — さりげなく置かれたイスとセットのサイドチェア
- 10 — 日本料理など: インターナショナルな視点で解釈した“日本の森”が表現されている。黒を基調にした和モダンな空間
- 11 — 水面に滴(しずく)が落ちたイメージのアートワーク

通常ホテルのデザインは、その土地感を表すデザインを提案することが多いのだが、このプロジェクトにおいては、今まで東京に存在することのなかった普遍的な東洋の美——永遠に飽くことのない洗練されたエレガントさを極めることとした。周知のとおり「シャングリラ ホテル」は世界各地で幅広く活躍され、素晴らしいアイデンティティを持っておられる。そのDNAを遺憾なく発揮するようにデザインすることが、

まさにこのホテルのハード面でのホスピタリティであると確信したのだ。われわれホテルデザイナーにとって何よりも特殊な技術であり、また一番の誇りであるのがゾーニング、スペースプランニングというテクニックである。それは華やかな照明器具や家具、雰囲気を引き立てるアートワークなどが彩る今のデザインに至るずっと前の段階の作業であるが、これを誤れば最善の機能が不可能となり、最高

のサービスを提供することさえできなくなる。ホテルの従業員がゲストに最高のサービスを提供する努力をするように、われわれデザイナーもクライアント、ホテルのために、最高の空間を与えるというサービスを提供することを常に心がけている。それにはゲストの動線を存分に把握し、スタッフの動きを無理なくするスペースの提供が大切である。アジアに広がる「シャングリラ ホテル」の大規模なスペースに比べ、

今回は制約された箱型のコンパクトなスペースであったため、特に機能性に従ったスペースデザインを重視した。あまり想像がつかれないと思うが、ホテルデザインに最も重要なこの作業に力を入れたからこそ、完成したラグジュアリーな空間が現在、当たり前のように存在するのだ。パブリックエリアは、クリスタルをふんだんに施したシャンデリアの輝き、重厚感のある大理石、エキゾチックなモビングの木

壁、ハンドタフテッドのゴージャスなカーペットなど、特にシャングリラのDNAを強調するアートワークたちが、エレガントで贅沢な空間を演出する。客室においてもゾーニングにはこだわり、全室50m²以上という広さを活かして、ゆとりと高級感のあるレイアウトを存分に配した。特に水まわりには、日本文化の“おもてなし”である風呂の快適性を取り入れた。十分なスペースの洗い場と、肩まで浸れる

浴槽という和の要素に加え、レインシャワーや、寝室エリアとの空間に奥行きを配慮した大きな窓を設けて、バスルームに自然光を与えるようにした。

これら非日常的な贅沢な空間づくりとデザインが、ホテル側の心からのサービスと相まって、ゲストの心身を十分に癒してくれる真のホスピタリティを実現することができるのだと思う。

DESIGNER'S COMMENT

デザイナーズコメント | ホスピタリティを追求するデザインプロセス

堀井直子 | Naoko Horii

12



13



14



15



16



12—デラックスルームのベッドルーム：木調でまとめられたエレガントな空間

13,14—バスルーム：黒の大理石が重厚さを演出している

15—窓際のソファ：人間工学に基づいてデザインされているため、ゆったりとくつろぐことができる

16—ベッドに置かれたクッション：一つひとつ大きさが異なり、さまざまなシチュエーションで大活躍している

17



18



19



20



21



22



23



17—プレミアムのバスルーム：ビューバスが楽しめる贅沢な空間

18,19—ベッドサイドのチェストと小物類：プリングやスイッチの周りまで革や木などの自然素材にこだわり、優しさや高級感を演出

20—絨毯は毛足の長いタイプと短いタイプを巧みに使い分け、上質な空間づくりをしている

21—東京の景色を見渡すことができるライティングデスク

22—エレベーターホール：シャンデリアによって、シックかつゴージャスな空間にまとめている | 23—心を和ませるアートワークがホテルの至るところに飾られている